



遠位型ミオパチーの難病指定に向け、嘉田由紀子知事に支援を求める患者ら（大津市・県庁）

難病指定へ支援を

手足の筋力低下進行「遠位型ミオパチー」

患者団体、知事に要望

手足の筋力低下が進んでいく病氣「遠位型ミオパチー」の患者会メンバー二人が先日、大津市の滋賀県庁を訪れ、難病指定と治療薬開発の早期実現に向け、嘉田由紀子知事に支援を求めた。

遠位型ミオパチー

は、百万人に三、四人の割合で発症するといわれる。発症から十年前後で歩行が困難になり、さらに進行すると座することも難しくなる。

この日、車いすで県庁を訪れた患者会代表の中岡亜希さん（31）

「宇治市」と辻美喜男さん（47）「彦根市」は「一日も早く治療薬を手にすることができるよう、力になってください」と嘉田知事に訴えた。

患者会は署名活動を行っており、今月中にも厚労省に署名を提出する。問い合わせは事務局 ☎048(764)3881。(小野俊介)